

秋田県内自治体として初めての協定締結

美郷町と東北大学大学院農学研究科が連携と協力に関する協定を締結

12月22日、町は国立大学法人東北大学大学院農学研究科と、連携と協力に関する協定を締結しました。締結式終了後はラベンダー園や六郷湧水群等を視察し、今後の連携内容について協議を重ねました。

本協定は地域の食料や特産品、農林水産業の課題解決と発展を図り、持続可能な地域社会の構築や産業の振興に寄与することを目的としています。

今後は共同研究等の実施、人材育成、イベント開催等について連携・協力を予定しています。

秋田県美郷町・東北大学大学院農学研究科 連携と協力に関する協定締結式



▲松田町長と北澤春樹研究科長



美郷の相撲道は元旦にあり!

美郷町相撲連盟 新年初稽古

美郷町相撲連盟(伊藤福章会長)が主催する新春恒例の初稽古が1月1日に美郷中学校相撲道場で行われました。

当日は美郷相撲スポーツ少年団や美郷中学校相撲部、地元OBたちなど合わせて約30名がまわし姿で集まりました。神事で今年一年の精進と安全を祈願した参加者たちは、四股踏みやすり足、勝ち抜きで行われる申し合い稽古に取り組み、道場は体と体がぶつかり合う音が響き渡りました。

「スキーって楽しい！」

スキー教室を開催

町主催のスキー教室が1月10日、12日に後三年スキー場で開催され、町内の小学1・2年生の児童41名が参加しました。参加した児童たちは美郷町スキー連盟(高橋強信会長)の指導のもとでどんどん上達し、うまく滑れるようになると「楽しい!」「もう1回!」と笑顔を見せっていました。



MISATOPICS
町の話題



美郷の冬は楽しみがいっぱい!

ウインターラクティビティ 体験会を開催しました

町とあきた美郷づくり株式会社の共催によるウインターラクティビティ体験会が、1月17日に仏沢ため池周辺で行われました。美郷町のアウトドアを楽しく安全に案内する専門家「ネイチャーガイド」を活用した本事業は、町内外から8名の参加者が集まり、スノーシューハイク、冬のキャンプスイツづくり、スノーモービル体験と盛りだくさんのアクティビティを楽しんでいました。



最近、中学の同期生をはじめとする年齢の若い方々から、オートバイに乗り始めたという話を伺うことが多くなりました。大体は若い頃にオートバイに乗っていた方々で、「年齢的に今が再開時期」との判断で、オートバイ人生再始動ということのようです。かつてオートバイに乗っていた私も、大いに心が動かされるところです。

私が学生時代から乗っていたオートバイはオフロードタイプで、きっかけは高校3年生から読み始めた「ビーパル」という雑誌でした。山中の林道を走り、溪流でゆっくり自然と向き合う目

COLUMN
WINDS

コラム
風

器の役割

美郷町長 松田知己



▲東北大学大学院農学研究科との協定締結式で挨拶をする松田町長

的でそのタイプを選び、併せて河原でくつろげるようキャンプ用シングルバーナーやコッヘルなども準備しました。特にコッヘルは優れもので、ある時は調理用鍋に、ある時はコーヒーカップに、ある時は盛り付け皿になり、まさに万能の調理器具であり、万能の器でした。

そうした「万能の器」は、いろんな場面で欲しいわけですが、仕事の場面においても同様です。(でもコッヘルではありませんよ笑)仕事における万能の器は、例えば企業や団体等との包括的連携協定などがそれに当たります。連携協定では大体のケースで複数の展開内容を盛り込みますので、その協定が、ある時は産業振興のための器になり、ある時は地域振興のための器になります。健

康づくりのための器になるわけです。まずはその

器（連携協定）があるかないかそれが重要となります。あればこそ、新たな連携展開が可能となり、無ければそうした展開はできないですから。

そうした想いを持つて、美郷町ではこれまでいろいろな団体等と連携協定を締結してまいりました。そして昨年12月下旬、その充実として東北大学大学院農学研究科と連携協定を締結したところです。先進的な研究を行っている大学ですので、この連携協定が今後いろいろな器となり、美郷町の町づくりに関わってもらえるものと期待しております。そしてその第一歩が美郷雪華に関する連携です。大学が持つ知識と技術で、美郷雪華に関して新たな展開に取り組みます。どんな結果となるか分かりませんが、せっかくの器（連携協定）です。積極的に活用し、町づくりを前進させてまいりたいと思います。

とは申すものの、こうした立派な器をうまく利用できる私の器なのかどうか、そこが最も心配なところではあります。笑